

## 強い求心力を発揮するために

日本経済を取り巻く環境は近年、目まぐるしく変化しています。今後も世界経済や国内政策の動向で一時的には景気が上向く局面もあるでしょう。しかしながら、皆さんもご存じのようにいよいよ「人口減」社会が到来します。日本の生産年齢人口は今後40年間で約40%の減少傾向にあるため、構造的に国内の需要は縮んでいくと思われまます。

日本でビジネスをする限り、人口減とマーケットの縮小という構造の中で、これまで経験しなかった環境適応をしていかなければならなくなりました。加えて、日本の成熟した市場では全ての商品やサービスの同質化が進み、差別化が打ち出しにくい状況でもあります。ライバルとの差が少なくなるほど企業としての付加価値は減少し、利益が出にくくなります。このような環境になれば、従業員の賃金を上げていくこともますます難しくなっていきます。

とはいえ、このような難しい時代を迎える中で、企業は社員に対して働きがいや愛社精神を引き出していかなければなりません。組織として『強い求心力』の発揮が必要となってきます。

『強い求心力』を発揮するためには、社員に対して自社はどんな企業としてどんな方向へ向かうのかをしっかりと明示し、その方向性のもと力を結集する必要があります。そのためには『会社の理念・方針による経営』が有効です。

## 理念経営の3つの効用とは

『理念による経営』は、本質的なものとして機能すれば、単なる道徳論ではなく数多くのメリットを企業にもたらします。それは長く繁栄を続けている優良企業ほど『理念による経営』を実践していることが多いことからもうかがえます。『理念による経営』は様々な効果をもたらしますが、今回は3つほど述べてみたいと思います。

①『理念』に基づき組織・集団の進むべき方向が明確になる。集団のエネルギー、各個人のベクトルを集約することができる

見えない時代ほど社員は方向性を求めます。明確な方向性を示せるところに人は集まります。『理念』を提示することで組織に求心力が生まれます。理念があることで企業方針も安定し、中長期的な取組みがぶれない『羅針盤』を持った経営が展開できるのです。

②社会的にも意義のある『理念』(=理想)を提示することで、社員のモチベーションや組織に対する共感、愛社精神を生み出すことができる

自分達は何のために企業活動を行っているのか、何のために頑張るのかについての意味を明確にすることで社員のモチベーションや愛社精神を引き出しやすくなります。心理学の世界でも研究されていますが、状況が厳しいときほど意味を見つけている人間や組織が強いことも事実です。目先不透明な時代であるときほど『理念』の提示が重要な要素となってきます。

③自社の理念・戦略ビジョンに基づいた継続的な活動によって他社との「違い」「差別化要素」を生み出すことが可能となってくる

理念が明確であることにより、限りある経営資源を戦略的に重要なモノに投下し、継続的な取組み・蓄積をはかることが可能となっていきます。その結果、自社ならではの差別化要素が形成されていきます。また、多様な機能や個性からなる集団・組織であっても常に根本は同じ判断軸で動けば、一貫性が生まれ企業の独自性を生み出します。

このほかにも『理念による経営』には様々なメリットがあります。これからの時代に向けて『理念経営』を実践してみたいか——。

社長の考え・方針を社員に浸透させる人事のしくみセミナー

<http://jinji.jp/seminar/2014/0729-421714.php>